対人援助職者の感情状態と関連する 職業生活出来事の再検討

森本・神田・長田 (2011) の追試結果の概要に関する報告

○森本寛訓¹・稲田正文²・瀧川真也²・長田久雄³

(¹川崎医療短期大学・²川崎医療福祉大学・³桜美林大学)

キーワード: 対人援助職者, 職業生活出来事, 感情状態

Reexamination of work life events correlated to affective states of human care service professionals

Hiromichi MORIMOTO¹, Masafumi INADA², Shinya TAKIGAWA and Hisao OSADA³

(¹Kawasaki College of Allied Health Professions, ²Kawasaki University of Medical Welfare, ³J.F.Oberlin University)

Key Words: human care service professionals, work life events, affective states

目 的

対人援助サービスは対人援助職者の行為そのものである。そのため対人援助サービスの充実には、対人援助職者自身の感情状態によって、その充実の程度が左右される。対人援助職者の感情状態をネガティブではなく、よりポジティブな状態で保持することは、対人援助サービスの充実を図るためにも重要であるといえる。森本・神田・長田 (2011) は対人援助職者が職場で体験するポジティブ感情 (Positive Affect: 以下 PA とする) とネガティブ感情 Negative Affect: 以下 NA とする) の各々と正の相関関係にあるポジティブ職業生活出来事 (Positive Work Life Events: 以下 PWLE とする) およびネガティブ職業生活出来事 (Negative Work Life Events: 以下 NWLE とする) に焦点を当て、研究を進めてきた。本研究は森本他 (2011) を追試し、森本他 (2011) で報告された内容を再検討することを目的とする。

方 法

調査期間 2014 年 2 月から 3 月にかけて実施した。

調査内容 森本他 (2011) と同様に PWLE・NWLE および PA・NA について調査するとともに、森本他 (2011) で考察した内容を検討するために BAS (Behavioral Activation System), BIS (Behavioral Inhibition System) についても調査した。まず PWLE・NWLE の調査のために、今回は森本他 (2011) の調査 1 で作成した 54 の PWLE・NWLE 項目を加筆修正して使用した。この加筆修正版は 6 下位尺度計 72 項目からなり、全項目を 4 件法で評定した。PA・NA は日本語版 PANAS (佐藤・安田, 2001) で調査した。この尺度は PA・NA を各々 8 項目で測定する。今回は全項目を 4 件法で評定した。最後に BAS・BIS は BIS/BAS 尺度日本語版 (高橋他, 2007) で調査した。この尺度は BAS を 13 項目 (3 下位尺度), BIS を 7 項目 (1 下位尺度) で測定する。今回は全項目を 4 件法で評定した。

調査手続きと調査対象者 本研究は Web 調査で実施した。Web 調査は (株) クロス・マーケティングを通じて行った。この調査は森本他 (2011) の調査計画に従い 2 回に分けて行われた。1 回目の調査では (株) クロス・マーケティングが保有する全国のモニター会員のうち対人援助職者である看護師と介護福祉士および保育士の有資格者 3083 人に Web 画面を配信した。2 回目の調査では 1 回目調査で有効回答が得られたモニター会員を対象にして Web 画面を配信した。その後データクリーニング等を経て最終的に 569 人を本研究の調査対象者とした。

結果と考察

PWLE・NWLE の因子不変性 森本他 (2011) では PWLE・NWLE の内容を明らかにするために、対人援助職者として看護職員と介護職員および児童養護職員の 3 職種を取り上げ、彼らから得られたデータをもとに PWLE・NWLE の因子不変性について分析している。そこで今回の研究でも調査対象者のデータを用いて PWLE・NWLE の因子不変性を分析した。因子不変性は一致係数 (Harman, 1976, p. 344) と GFI 等の適合度指標を算出することで分析した。分析の結果、森本他 (2011) では PWLE・NWLE とともに「職員間の関係」と「職場での役割」の 2 因子について因子不変性が確認されたが、本研究でもこれら 2 因子に因子不変性が認められた。

PWLE と PA, および NWLE と NA の相関関係 森本他 (2011) では因子不変性が認められた PWLE・NWLE の各 2 因子と PA・NA との相関係数を算出して、相関関係を確認している。その結果、PWLE と PA の間、そして NWLE と NA の間には、有意な正の相関関係 ($0.256 \leq r \leq 0.591$) が確認された。本研究でも森本他 (2011) と同じように相関係数を算出したところ、森本他 (2011) と同様の有意な正の相関関係 ($0.378 \leq r \leq 0.641$) が認められた。以上の結果は PWLE・NWLE 項目の定義から当然といえるが、このような相関関係が認められる理由として、森本他 (2011) は PWLE と PA の関係には BAS (報酬に反応してポジティブ感情の産出に関与する機序), また NWLE と NA の関係には BIS (罰に反応してネガティブ感情の産出に関与する機序) が影響しているためと考察している。そこで今回の調査から得られたデータより「BAS と PWLE」および「BAS と PA」の相関係数と、「BIS と NWLE」および「BIS と NA」の相関係数を算出すると、いずれも有意な正の相関関係 ($0.242 \leq r \leq 0.448$) が確認され、森本他 (2011) が考察した内容を裏付ける結果が得られた。

まとめ 以上より本研究では森本他 (2011) の報告内容を再認する結果が得られたといえる。今大会での発表時には以上の分析で得られた統計量を詳細に揭示し、研究結果についてより具体的に報告する予定である。

引用文献 (主な論文のみ)

森本寛訓・神田有希恵・長田久雄 (2011). 対人援助職者の感情状態と関連する職業生活出来事の検討 ヒューマン・ケア研究, 12, 35-51.